

高病原性鳥インフルエンザの野生動物による感染の確認及び消毒方法の開発

研究期間	平成 24 年度～平成 26 年度
課題番号	2404
研究実施機関	(大)鳥取大学
研究概要	2010 年の高病原性鳥インフルエンザの発生は 9 県 24 農場におよび、国内最大の事例となりました。農林水産省が設置した疫学調査チームの中間とりまとめでは、感染拡大の要因としてねずみ等小型野生動物の関与が示唆されました。このため、ねずみ(イエネズミ)等が鳥インフルエンザウイルスの感染源となり得るかどうかを明らかにするための研究を実施しました。 また、鳥インフルエンザは冬の厳寒期に発生する傾向にあるため、低温下での消毒薬の効果や消毒薬に不凍液を添加した場合の消毒の効果の減衰については不明な点が多くなっています。このため、低温下での効果的な消毒方法を開発するための研究を実施しました。
研究成果の概要	イエネズミ(ハツカネズミ、クマネズミ及びドブネズミ)の高病原性鳥インフルエンザウイルス感染に対する感受性とウイルス排出の実態を実験的に解明しました。さらに、イエネズミから鶏への伝播の可能性を実験的に評価するとともに、イエネズミの農場内での行動の一端と野生動物の農場内への侵入状況を明らかにしました。 また、低温下における本ウイルスに対する市販消毒薬の効果について、0℃から－30℃で、不凍液等添加の有無、有機物の有無による消毒効果の違いを明かにし、低温下で本ウイルスに有効な消毒方法を確立しました。

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載